

# インストールおよびセットアップガイド

---

WebReporter 2013



## 目次

<b>前提条件コンポーネントのインストール</b> .....	<b>1</b>
概要.....	1
ステップ 1: Internet Information Services の有効化.....	1
ステップ 2: Setup.exe の実行とウィザードの開始.....	3
ステップ 3: 使用許諾契約への同意.....	4
ステップ 4: Internet Explorer のインストール確認.....	6
<b>WebReporter ソフトウェアのインストール</b> .....	<b>7</b>
概要.....	7
ステップ 1: ウィザードの開始.....	7
ステップ 2 : エンドユーザー・ライセンス契約.....	8
ステップ 3: インストールアドレスの選択.....	9
ステップ 4 : [インストール]をクリックすること.....	11
ステップ 5: インストールしたコンテンツの確認.....	14
ステップ 6: コンピュータの再起動.....	15
<b>WebReporter をはじめて使用する</b> .....	<b>17</b>
概要.....	17
ステップ 1: WebReport サービスタイプの選択.....	17

ステップ 2: サーバー IP アドレスの検索.....	18
ステップ 3: サーバーのテスト .....	19
ステップ 4: WebReporter Web ページへのアクセス.....	20
ステップ 5: 「はじめに」に進む .....	21
<b>トラブルシューティング .....</b>	<b>23</b>
概要.....	23
"使用中のアプリケーションでエラーが発生しました" - "このアプリケーションページは無効 です" .....	23
"信頼されていません" .....	26
HaspService で "エンドポイントがリスニングしていません".....	28
"使用中のアプリケーションでエラーが発生しました" - "...セキュリティ設定が...非互換です" .....	30
"Web ページが見つかりません" または "404".....	32
"アプリケーション展開エラー".....	32
<b>よくある質問 (FAQ) .....</b>	<b>35</b>
概要.....	35
Internet Explorer 以外のブラウザを使用することはできますか?.....	35

# 前提条件コンポーネントのインストール

---

## 概要

この章では最初に行わなくてはならないことを説明します。ここでは以下の前提条件コンポーネントを取り扱います::

- Microsoft .NET Framework 4
- Microsoft SQL Server 2008 Express
- Internet Information Services (IIS)
- Internet Explorer

---

## ステップ 1: Internet Information Services の有効化

1. コントロールパネルにアクセスします。
2. **プログラムおよび要素**を選択します。
3. **Windows 機能**をオンまたはオフを選択します。Windows 機能ダイアログボックスが現れます。
4. 選択可能な機能のツリーから、**Internet Information Services** を展開します。
5. その下で、**Web マネジメントツール**および **World Wide Web サービス**を展開します。

6. **Web マネジメントツール** 下および **World Wide Web サービス** 下ですべてのチェックボックスをオンにします(図 2)。

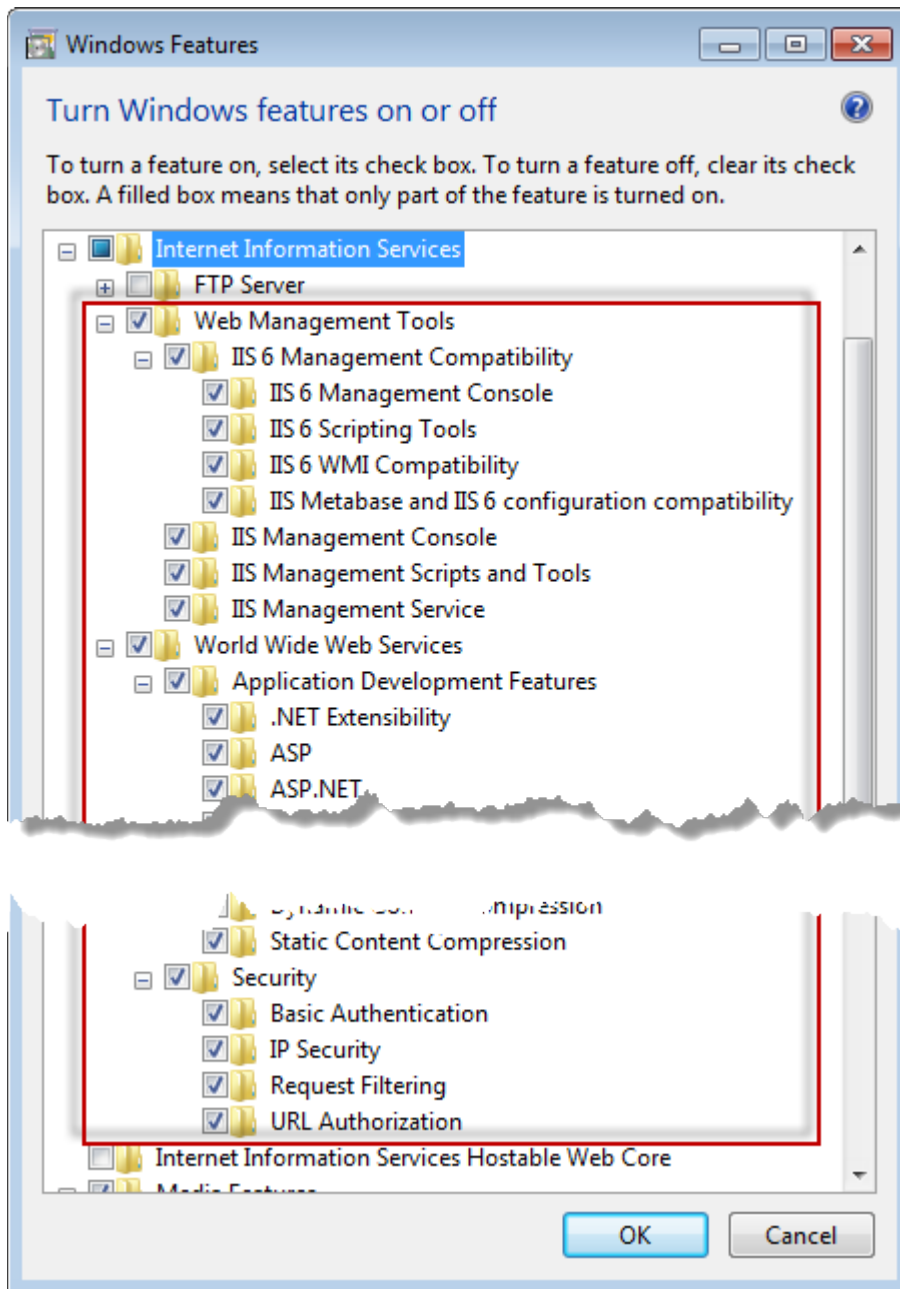
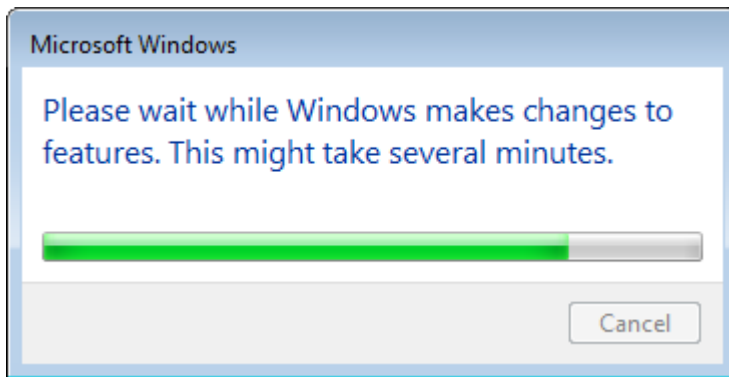


図 1 – Windows 機能

7. **OK** をクリックします。Windows が変更を行っていることを知らせるメッセージボックスと進行状況バーが現れます。これには数分かかります。



8. メッセージボックスが消えたら、次のステップに進みます。

---

## ステップ 2: Setup.exe の実行とウィザードの開始

CD/DVD からインストールする場合、メインの **setup.exe** (図 2) をダブルクリックします。

ダウンロード可能なファイルからインストールする場合、ダウンロードしたアーカイブからコンテンツを解凍し、そこから **WebReporterSetup.exe** ファイルをダブルクリックします:

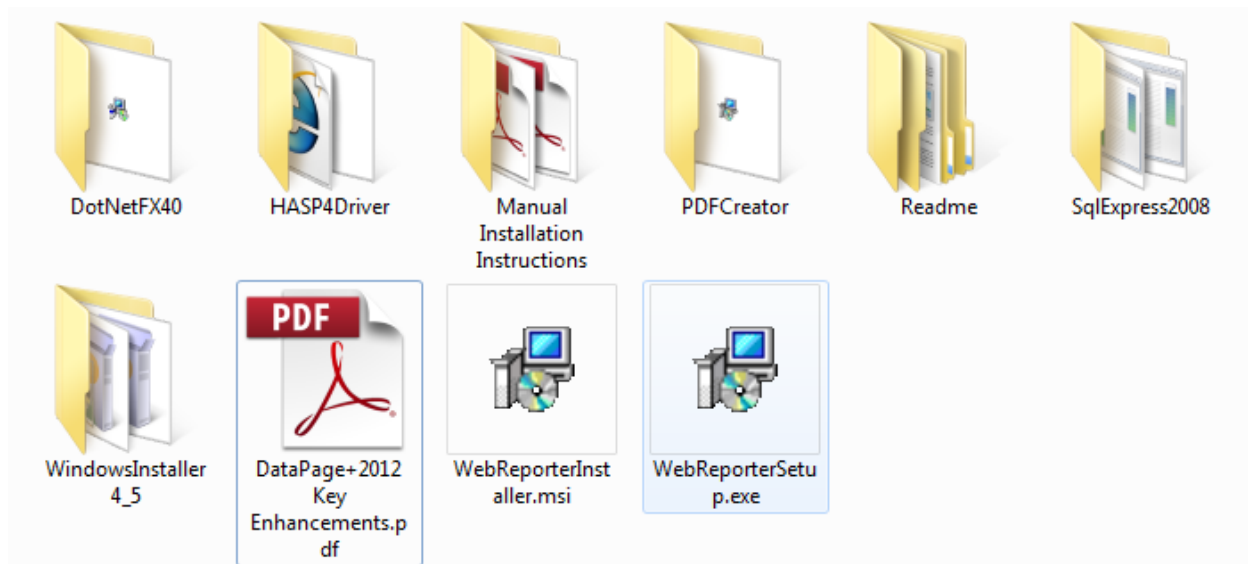


図 2 - Setup.exe ファイル

インストールウィザードが開きます。前述の必要なコンポーネントが見つからない場合、インストールパッケージはメインの DataPage+ アプリケーションをインストールする前にそれらのインストールを試みます。

## ステップ 3: 使用許諾契約への同意

表示された使用許諾契約へ同意します:

- 表示されたら、Microsoft .NET Framework 4 コンポーネントの [同意する] をクリックします (図 3)。
- 表示されたら、Microsoft SQL Server 2008 Express の [同意する] をクリックします (図 4)。

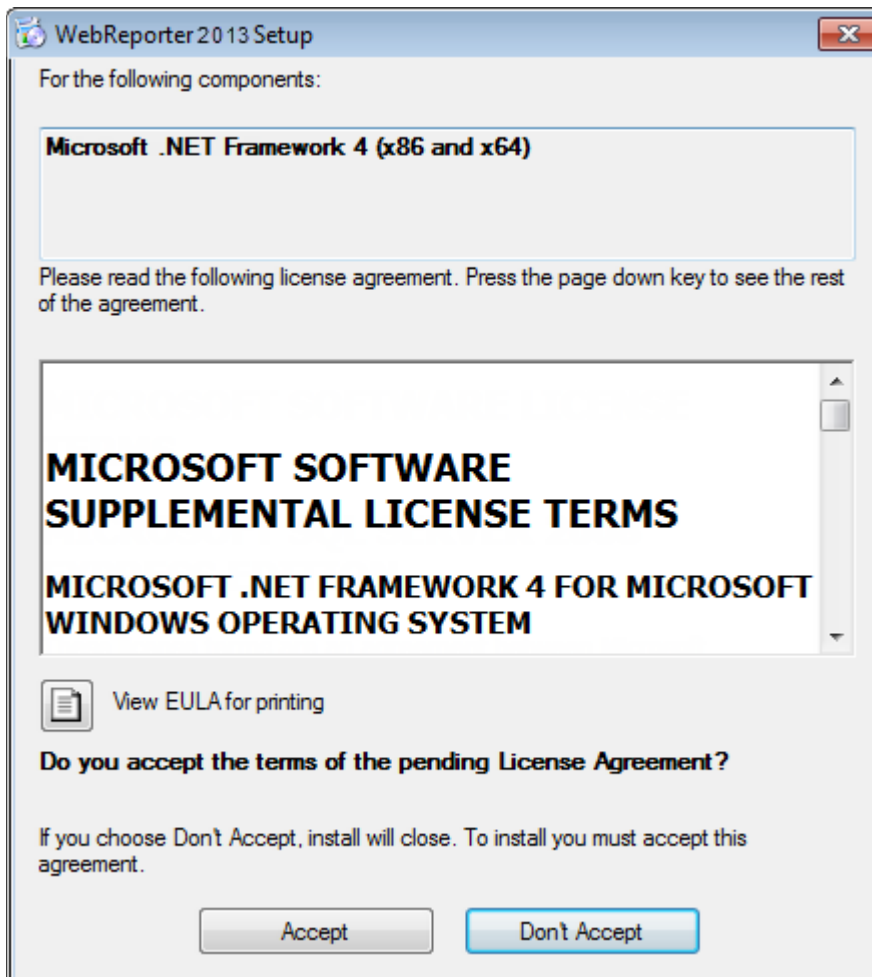


図 3 – Microsoft .NET Framework 4 使用許諾契約の同意待ち



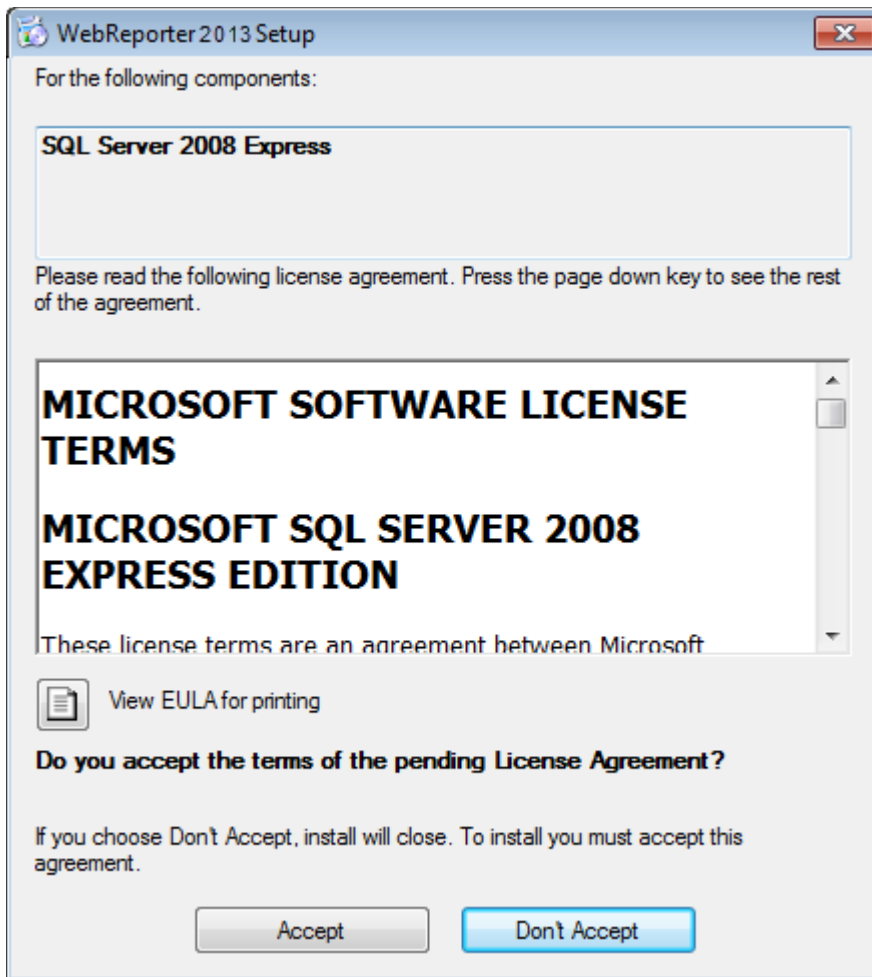
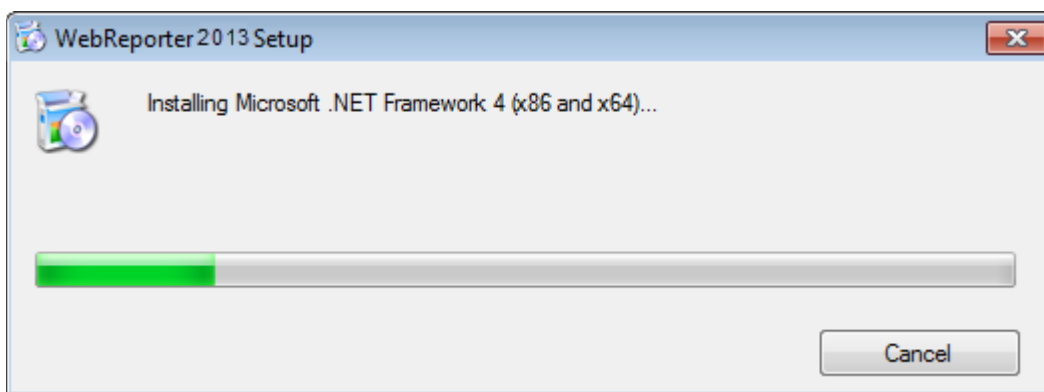
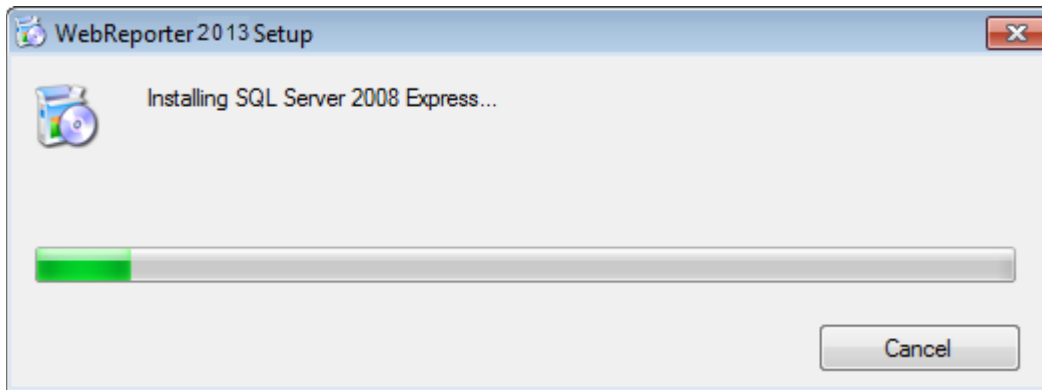


図 4 – SQL Server 2008 使用許諾契約の同意待ち

はじめに .NET Framework 4 の進行状況バーが現れます:



コンポーネントがインストールされたら、その直後に SQL Server 2008 Express のインストールを表すもう 1 つの進行状況バーが現れます:



これら必要なコンポーネントをインストールするには数分かかります、しばらくお待ちください。

.NET Framework 4 および MS SQL Express 2008 コンポーネントがインストールされたら、直ちにインストールプログラムはメインの DataPage+ インストールを開始します。7 ページの「WebReporter ソフトウェアのインストール」を参照してください

---

## ステップ 4: Internet Explorer のインストール確認

現在、WebReporter が機能するブラウザは Internet Explorer のみです。Windows オペレーティングシステムはこのブラウザをデフォルトでインストールしているため、意図的に無効にしない限り、既にシステムで利用可能となっています。Internet Explorer 9 またはそれ以上を使用することを推奨します。

最新版の Internet Explorer をダウンロードおよびインストールするには、以下の Web サイトより入手してください:

<http://windows.microsoft.com/en-US/internet-explorer/downloads/ie>

# WebReporter ソフトウェアの インストール

---

## 概要

ここでは WebReporter アプリケーションのインストールのみを取り扱います。インストーラはすでに前提条件コンポーネントをインストール済みである必要があります。詳しくは 1 ページの「前提条件コンポーネントのインストール」を参照してください。

---

## ステップ 1: ウィザードの開始

**注記:** setup.exe インストールプログラムを実行した時に既存のバージョンの WebReporter が既にシステムに存在する場合、既存のインストールを修復または削除するオプションが与えられます。

さらに、完全インストールセットを実行する場合、このインストーラは現在のシステムで MS .NET Framework 4 を見つけられない場合はインストールを行います。

.NET Framework 4 および MS SQL Express 2008 コンポーネントがインストールされたら、インストールプログラムは直ちにメインの DataPage+ インストールを開始します。

WebReporter セットアップウィザードが自動的に現れ、このプロセスをガイドします。ボックスに入力して目的のオプションを選択します。各画面で [次へ] をクリックします。

最初の「ようこそ」画面 (図 5) で、[次へ] をクリックしてウィザードを開始します:



図 5 - 最初のような画面

---

## ステップ 2 : エンドユーザー・ライセンス契約

エンドユーザー・ライセンス契約画面が表示されます ( 図 6 )。



図6 - エンドユーザー ライセンス契約

使用許諾契約を読んで、同意したら、[次へ]をクリックします。

---

## ステップ 3: インストールアドレスの選択

[インストールアドレスの選択] 画面が現れます (図 7)。

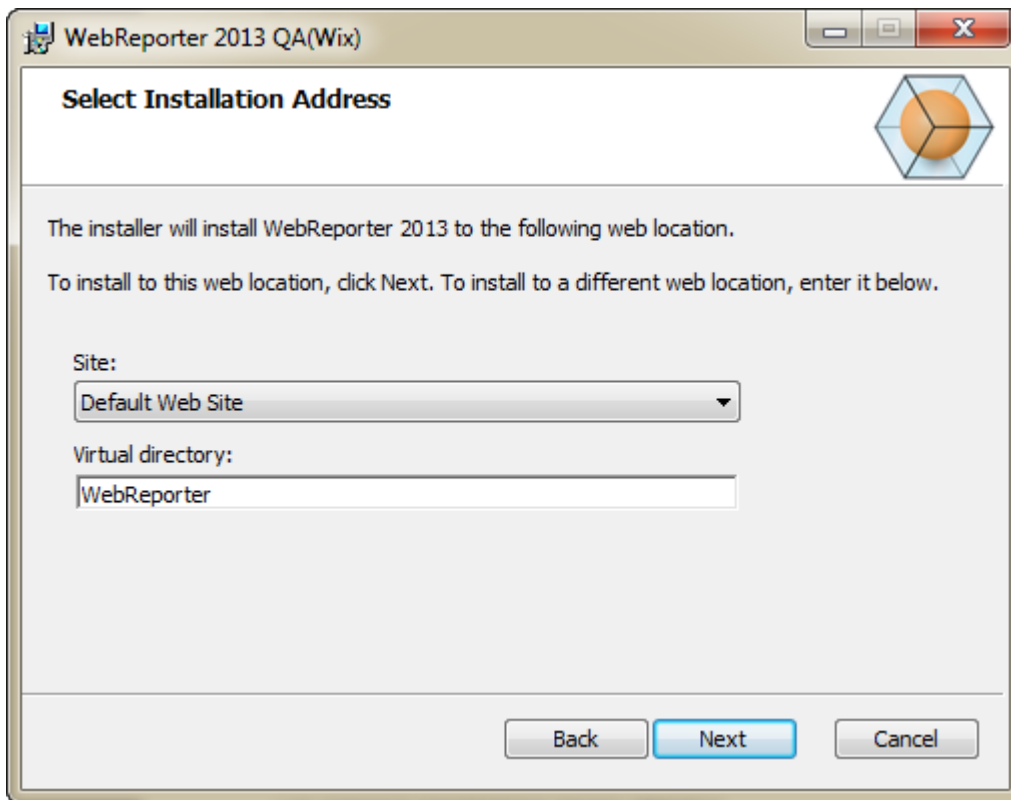


図 7- インストールアドレスを選択する画面

[サイト] リストから、**デフォルト Web サイト**をデフォルトのままにします。

[**仮想ディレクトリ**] で、WebReporter セットアップファイルが含まれるディレクトリ名を指定します。デフォルトの値は "WebReporterSetup" ですが、これを別の名前に変更することもできます。

続行する用意ができたなら [次へ] をクリックします。[**インストールフォルダの選択**] 画面が現れます (図 8)。

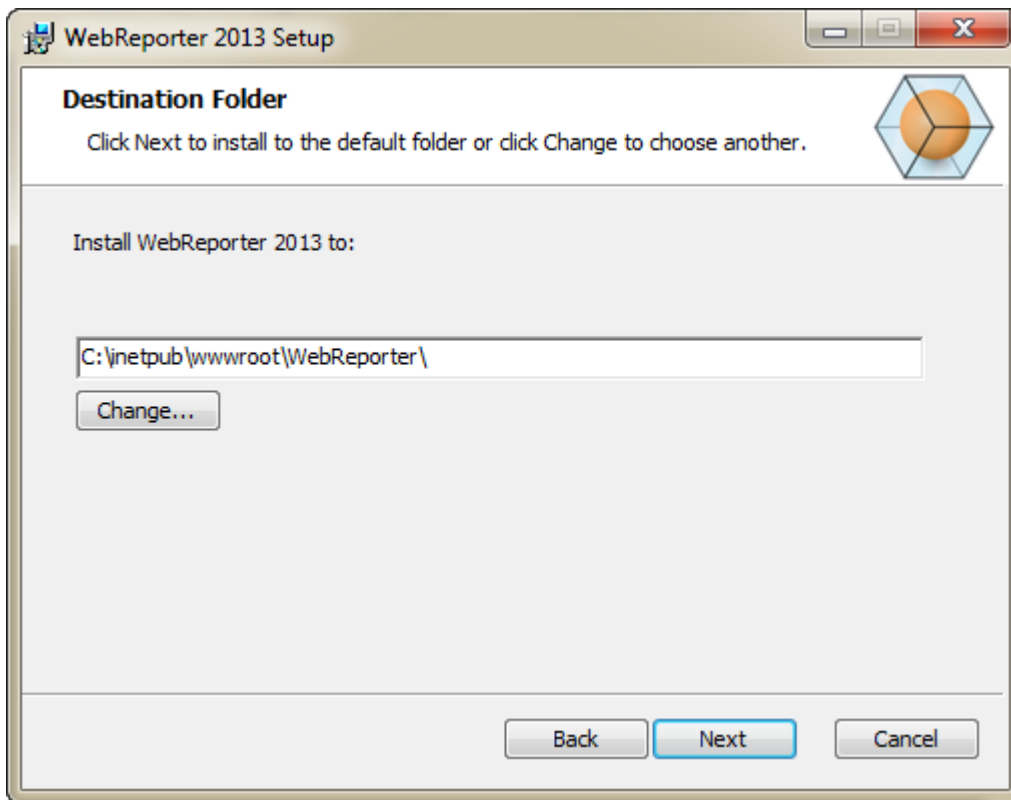


図 8- インストールフォルダの画面

これは、デフォルトのインストール場所にプログラムファイルがインストールされます：  
C:\inetpub\wwwroot\WebReporter\。インストールのパスを変更したい場合は、**[変更]**をクリックします。

続行する用意ができたなら **[次へ]** をクリックします。

---

## ステップ 4: [インストール]をクリックすること

インストールが必要なすべての情報を取得すると、**[インストールの準備完了]**画面が表示されます(図 9)。

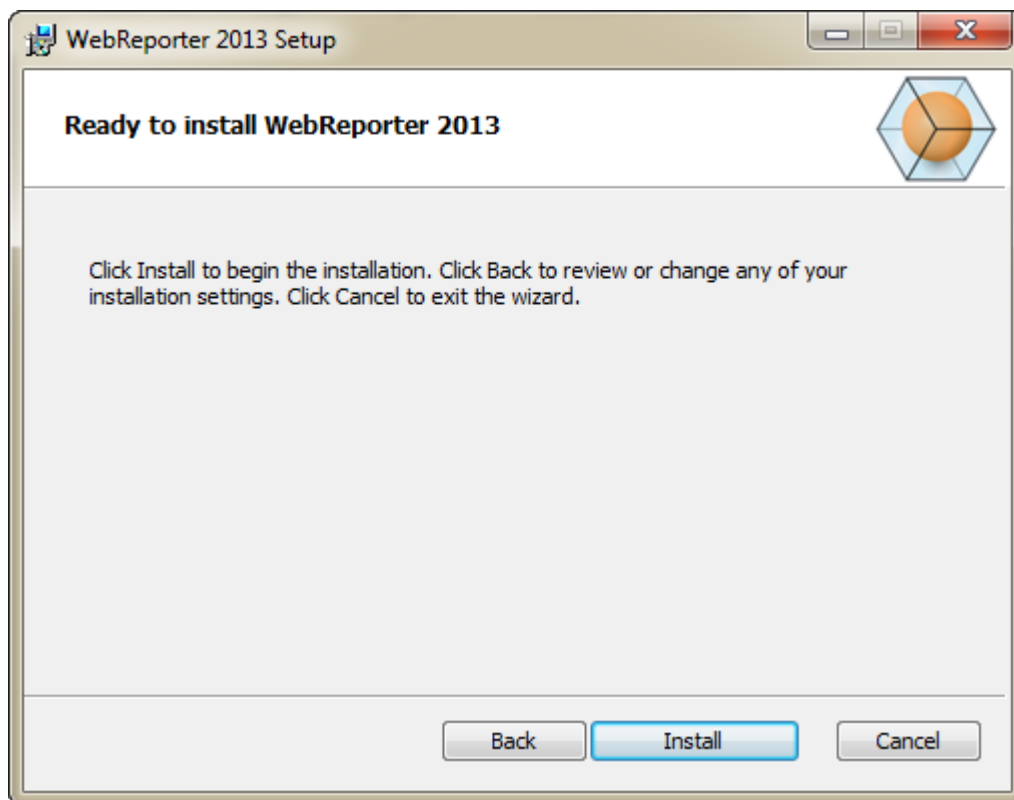


図 9- インストール準備完了の画面

[インストール] をクリックして実際のインストールを開始します。

WebReporter インストール画面が現れ、インストールの進行状況を示します。



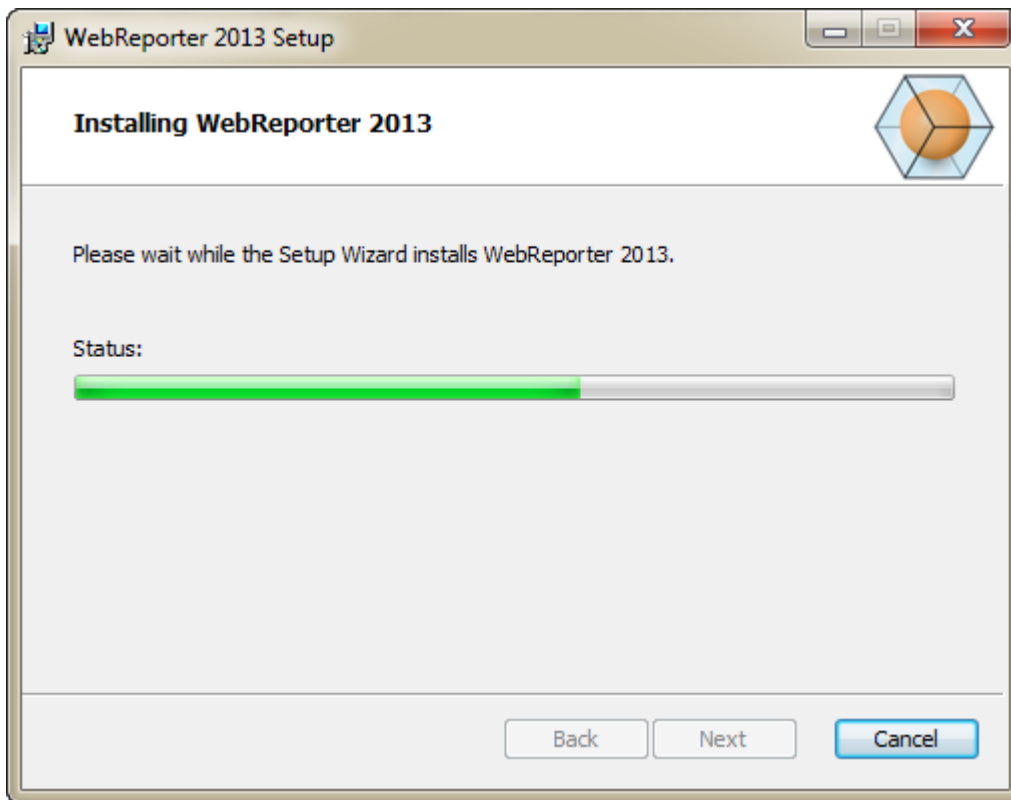


図 10 - インストールの画面

**注記:** ソフトウェアがインストールする間、しばらくお待ちください。インストールの完了には数分かかる場合があります。場合によっては進行状況バーが何も進まないように見えることもあります。

WebReporter が必要なファイルとショートカットのインストールを終了すると (図 9)、[完了] ボタンが利用可能になります。[終了] ボタンをクリックして [案内] を終了します。

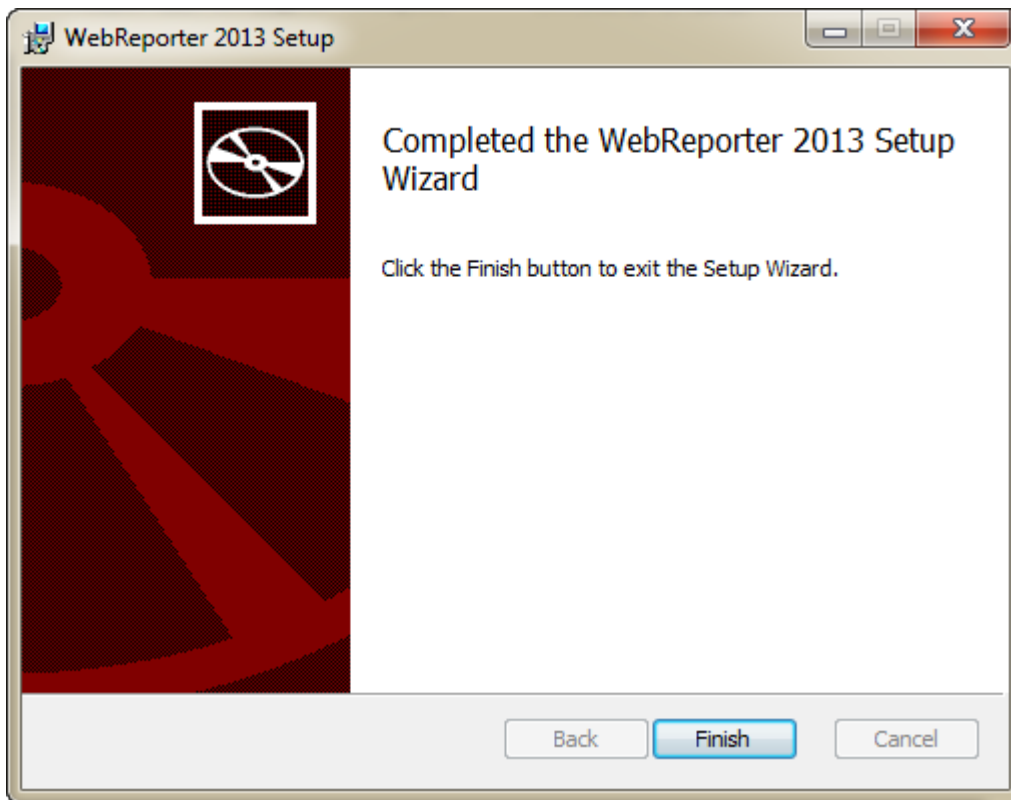


図 11 – インストールの完了画面

[完了] をクリックした後は、インストールしたショートカットアイコンにアクセスして WebReporter を起動することができます。

---

## ステップ 5: インストールしたコンテンツの確認

WebReporter をインストールしたら、ソフトウェアはプログラムファイルを 9 ページの「ステップ 3: インストールアドレスの選択」で指定した仮想ディレクトリにインストールします。

仮想ディレクトリは C:\inetpub\wwwroot\ ディレクトリ下に作成されます (図 12)。

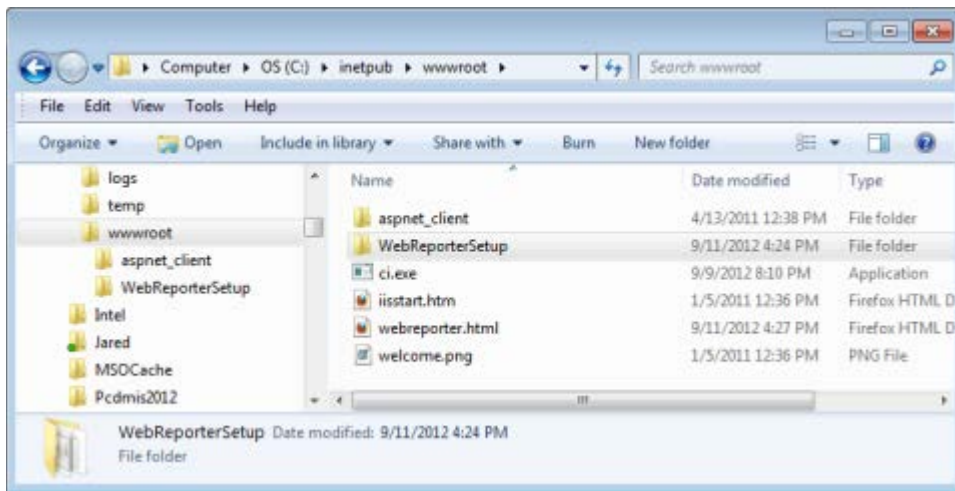


図 12 – C:\inetpub\wwwroot\ にインストールされたファイル

これにはメインの WebReporter ソフトウェア、ツール、XML ファイル、レポート、ヘルプファイル、追加のファイルが含まれます。

---

## ステップ 6: コンピュータの再起動

インストールが終了したら、インストールされたすべてのコンポーネントを正しく初期化するためにコンピュータを再起動します。



# WebReporter をはじめて使用する

---

## 概要

ここでは、WebReporter ソフトウェアをはじめて使用する場合に役立つ情報を説明します。

---

## ステップ 1: WebReport サービスタイプの選択

このステップは、ユーティリティの起動をガイドし、サーバーに接続して WebReporter ダウンロードし実行するためのサービスタイプを指定します。

1. **[開始]** をクリックし、**[すべてのプログラム]** を選択します。
2. インストールされたプログラムのリストから、**[WebReporter]** を選択します。エクスプローラウィンドウにショートカットが現れます。
3. 利用可能なショートカットより、**[WebReport サービス設定]** をクリックします(図 13)。

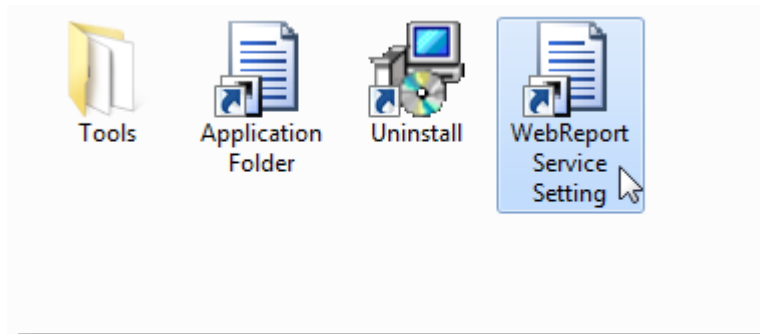


図 13 – WebReporter プログラムショートカット

4. **WebReport サービス設定** ユーティリティが現れます (図 14)。

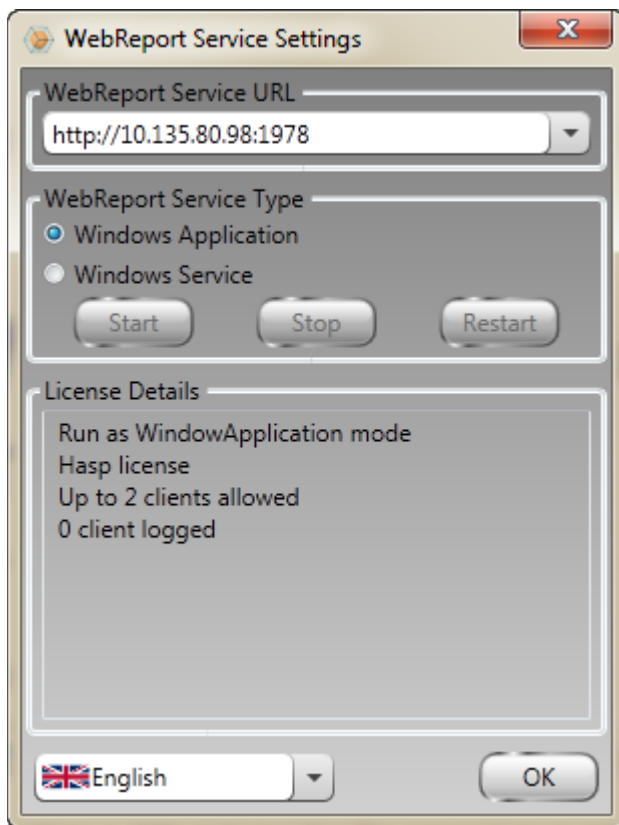


図 14 – WebReport サービス設定ユーティリティ

5. ユーティリティの [WebReport サービスタイプ] エリアより、以下の 2 つのサービスタイプのオプションのうち 1 つを選択します:
  - **Windows アプリケーション** – この設定では、WebReporter アプリケーションがサーバーマシンで実行している時のみクライアントマシンはサーバーマシンに接続できます。
  - **Windows サービス** – サーバーおよび Windows サービスが実行している限りクライアントマシンはサーバーマシンに接続できません (推奨する設定)。 (これは提案された設定です。)
6. **閉じる** をクリックして下さい。

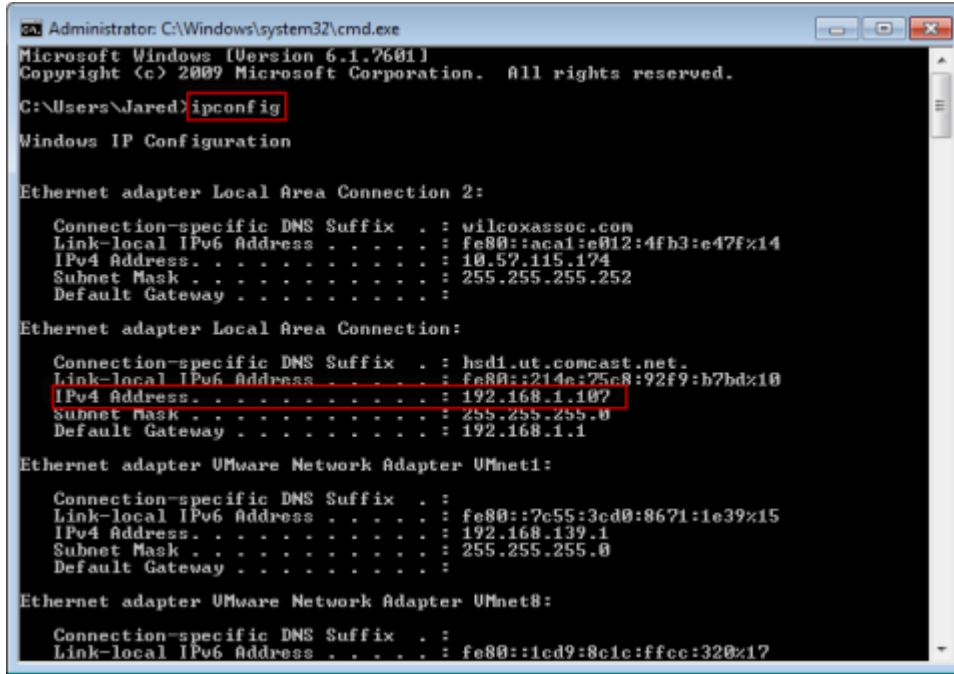
---

## ステップ 2: サーバー IP アドレスの検索

このステップは、サーバーコンピュータが使用する一意の IP アドレスを特定し、他のコンピュータがそのアドレスを使用して接続できるようにすることを支援します。

1. コマンドプロンプトウィンドウを開きます: [スタート] を選択し、[プログラムとファイルの検索] フィールドで **cmd** と入力して改行キーを押します。コマンドプロンプトウィンドウが開きます。

2. コマンドプロンプトに `ipconfig` と入力し、改行キーを押します。
3. コンピュータの IP アドレスを検索します。これがユーザーのローカル IP アドレスとなります。同じローカルエリアネットワーク内に存在する他のコンピュータはこのアドレスを使用して接続できます (図 15)。



```
Administrator: C:\Windows\system32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.1.7601]
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\Jared> ipconfig

Windows IP Configuration

Ethernet adapter Local Area Connection 2:

    Connection-specific DNS Suffix  . : wilcoxassoc.com
    Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::acal:e812:4fb3:e47f%14
    IPv4 Address. . . . . : 10.57.115.174
    Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.252
    Default Gateway . . . . . :

Ethernet adapter Local Area Connection:

    Connection-specific DNS Suffix  . : hsd1.ut.comcast.net.
    Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::214e:75c8:92f9:b7bd%10
    IPv4 Address. . . . . : 192.168.1.107
    Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
    Default Gateway . . . . . : 192.168.1.1

Ethernet adapter VMware Network Adapter VMnet1:

    Connection-specific DNS Suffix  . :
    Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::7c55:3cd0:8671:1e39%15
    IPv4 Address. . . . . : 192.168.139.1
    Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
    Default Gateway . . . . . :

Ethernet adapter VMware Network Adapter VMnet8:

    Connection-specific DNS Suffix  . :
    Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::1cd9:8c1c:ffcc:320%17
```

図 15 - サーバー IP アドレスを表示するコマンドプロンプトウィンドウ

サーバーのローカル IP アドレスをメモしておいてください。上図の例では 192.168.1.107 となります。これは、後ほどブラウザでソフトウェアを実行する際に使用します。

---

## ステップ 3: サーバーのテスト

上記のステップで見つけたサーバーの IP アドレスを用い、これをインターネットブラウザのアドレスフィールドに入力し、改行キーを押します。サーバーが正常に動作している場合、IIS7 を表示したページが現れます (図 16)。



図 16 –稼働中の IIS7 サーバー

---

## ステップ 4: WebReporter Web ページへのアクセス

上記で見つけた IP アドレスを用い、Internet Explorer にこのアドレスと webreporter.htm ページを次のように入力します:

**http://<ServerIPAddress>**、ここで <ServerIPAddress> はサーバーの IP アドレスです。

例えば、以下のようになります :



ENTER を押します。

サーバーに新しいバージョンが用意されている場合、ブラウザはそのアプリケーションをクライアントにダウンロードします (図 17)。



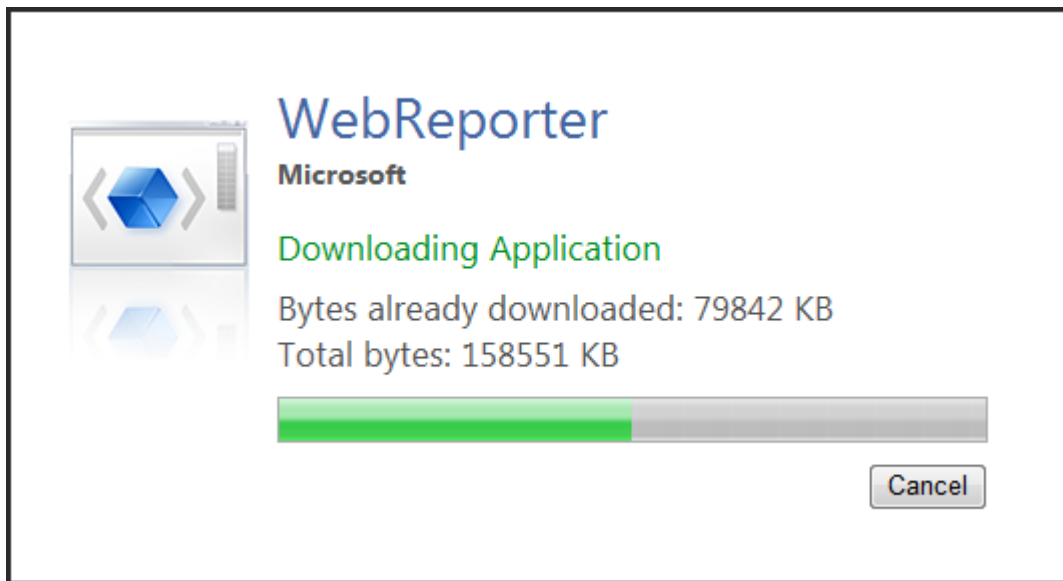


図 17 – アプリケーションをクライアントマシンにダウンロード

ダウンロードが終了したら、ソフトウェアはログイン画面を表示します。

---

## ステップ 5: 「はじめに」に進む

データベースの接続に問題がある場合、またはデータベースに接続しているが単に初回の登録またはログインが必要な場合、Datapage+ ヘルプファイルの「はじめに」にアクセスします:

1. アプリケーションウィンドウの右上にあるヘルプボタンをクリックします (図 18)。

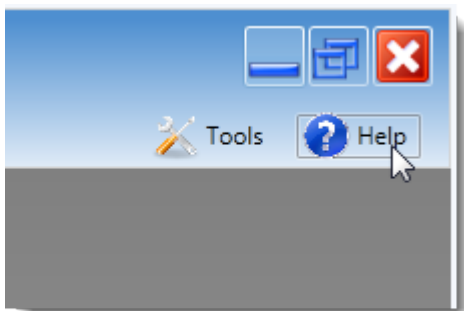


図 18 – ヘルプボタン

2. ヘルプファイルの最初に現れる [ようこそ] 画面から、[はじめに] へのリンクをクリックします (図 19)。

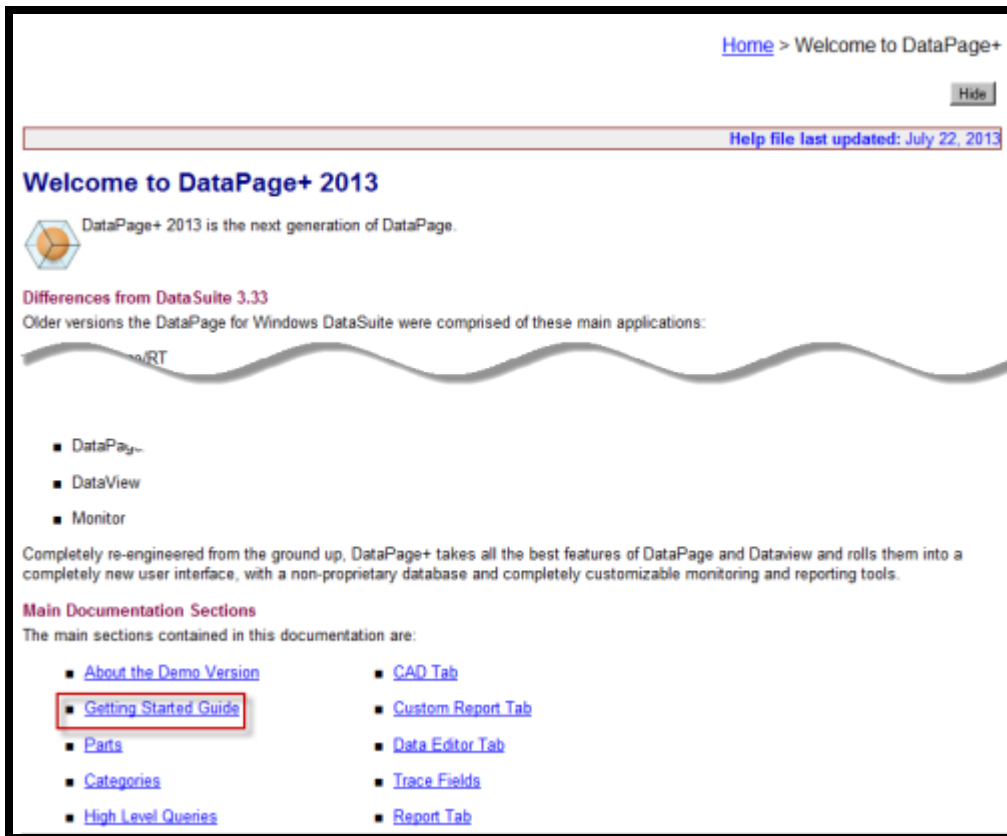


図 19 – [はじめに] へのアクセス

ヘルプファイルの [はじめに] が開きます。ここには新規ユーザー向けに以下の役立つトピックに関する情報が含まれています:

- データベースの接続
- 登録およびログイン
- 既存の統計データのインポート
- PC-DMIS から Datapage+ へのデータ送信
- ユーザーインターフェイスの概要
- 使用に関する概要

**注記:** WebReporter は DataPage+ の Web バージョンです。それ以外は同一の製品であるため、DataPage+ と WebReporter は同じヘルプファイルを使用します。

# トラブルシューティング

## 概要

WebReporter または必要なソフトウェアコンポーネントが正しくインストールできない、または正常に実行できない場合、前のバージョンの Microsoft SQL Server 2005 Express と競合している、インターネットオプションの設定に問題がある、あるいはその他の設定に問題がある可能性があります。

以下のトピックは、WebReporter サーバーに接続する際によく発生するエラーの修正方法と、その他の役立つ手続きについて説明します。

## "使用中のアプリケーションでエラーが発生しました" - "このアプリケーションページは無効です"

**問題:** Internet Explorer を使用して WebReporter.html ページを開いたときに、「使用中のアプリケーションでエラーが発生しました」というメッセージが表示され、[詳細情報] をクリックすると「このアプリケーションページは無効です」とのメッセージが表示されます。(図 20)

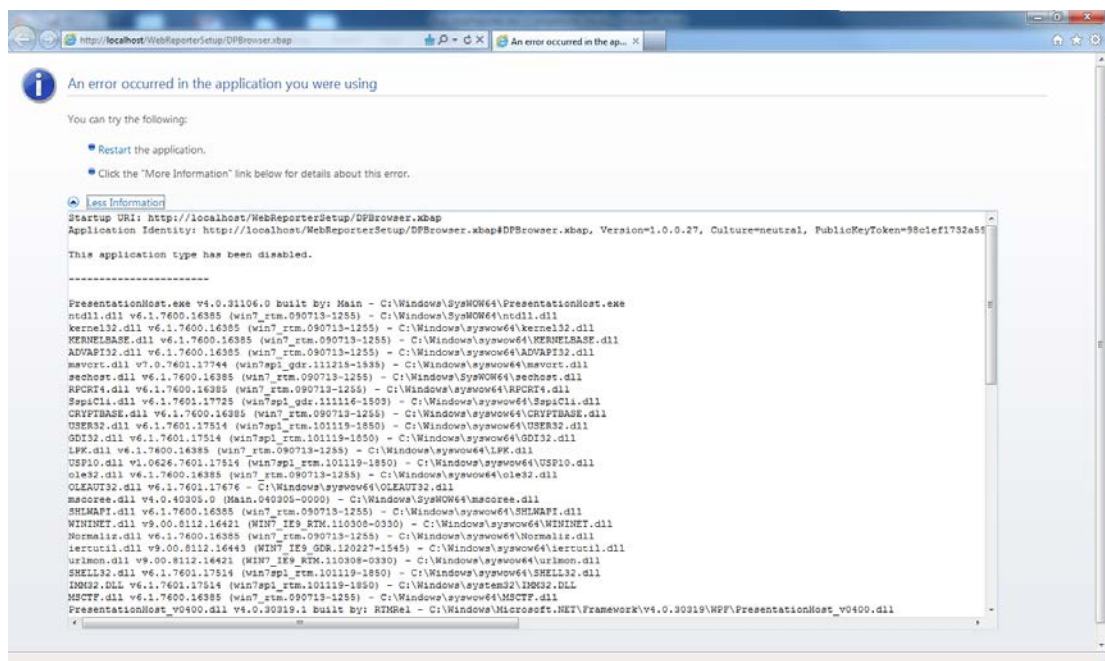


図 20 – 無効なアプリケーションページ

**解決:** 以下のようしてブラウザのセキュリティ設定を変更します。

1. IE 9 のメニューバーより、[インターネットオプション] メニュー項目にアクセスします (図 21)。

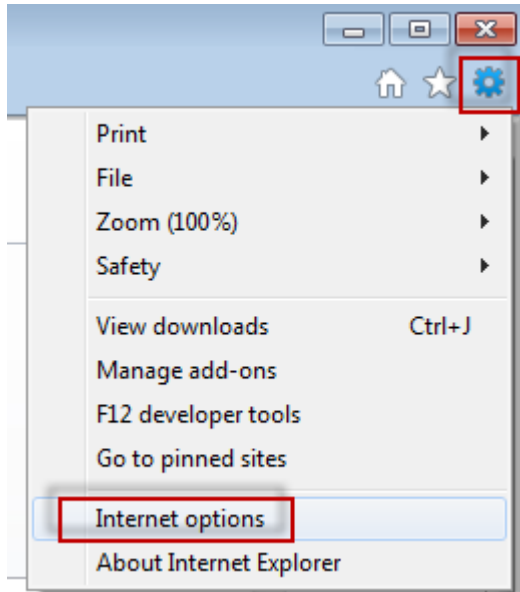


図 21 – インターネットオプションにアクセス

2. [インターネットオプション] ダイアログボックスが現れます。
3. [セキュリティ] タブより、[カスタム - レベル] ボタンをクリックします (図 22)。

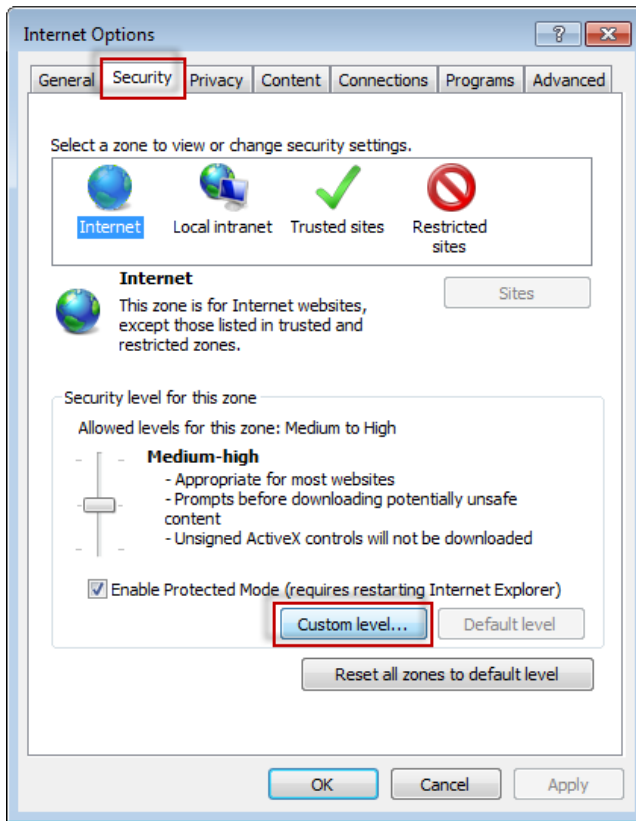


図 22 - カスタムレベル セキュリティ

4. [セキュリティ設定 - インターネットゾーン] ダイアログボックスが現れます。
5. [設定] リストで、.NET Framework の下より **Loose XAML** および **XAML ブラウザアプリケーション** を [有効化] に設定します (図 23)。

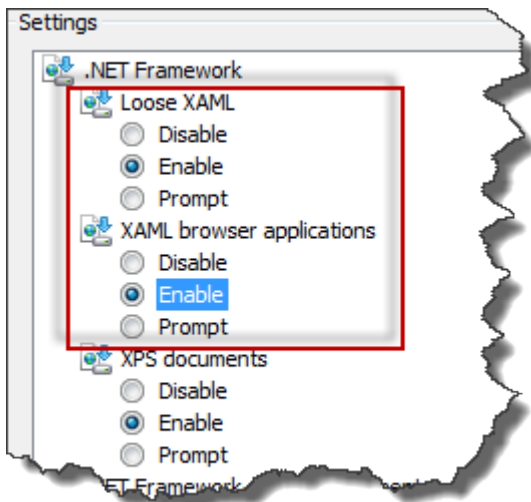


図 23 - XAML オプションを有効化

6. **OK** をクリックします。[セキュリティ設定] ダイアログ ボックスが閉じます。
7. [インターネットオプション] ダイアログボックスで **[OK]** をクリックします。ダイアログボックスが閉じます。
8. ページをリフレッシュします。

---

## “信頼されていません”

**問題:** Internet Explorer から WebReporter.html ページにアクセスしようとすると、「信頼されていません」というエラーメッセージがページに現れる (図 24)。

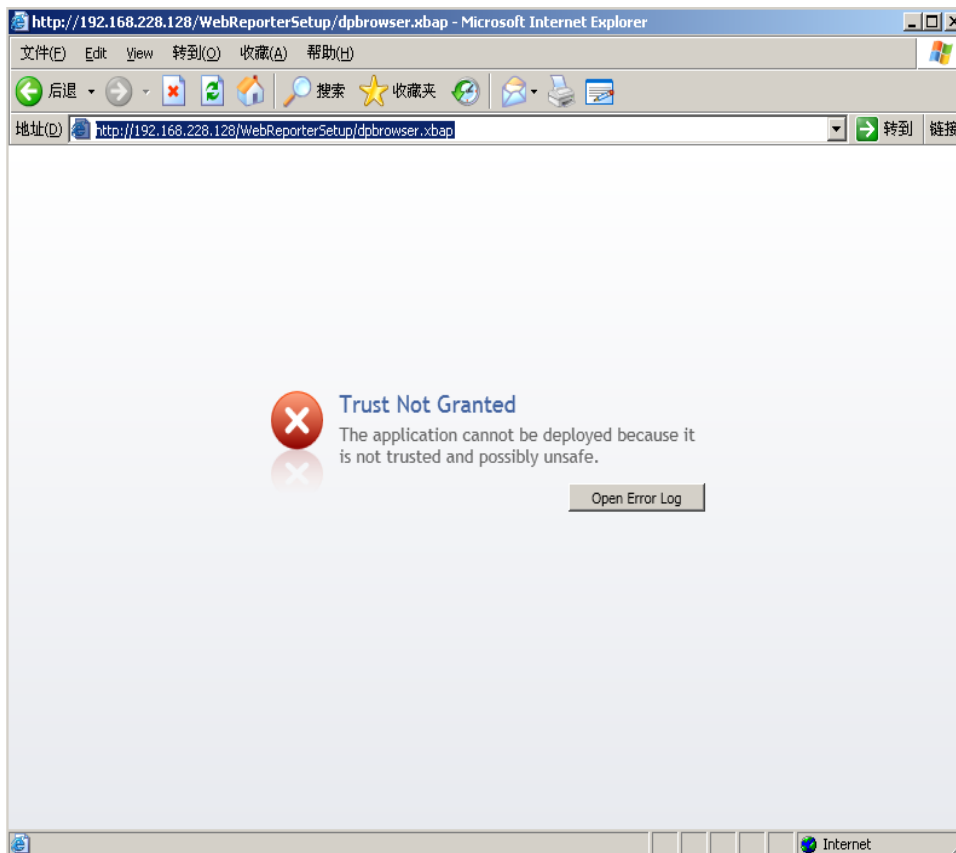


図 24 – 「信頼されていません」エラー

**解決:** ci.exe と呼ばれる認証インストーラをサーバーからダウンロードし、管理者権限で実行します。これにより、必要な認証がコンピュータにインストールされ、アプリケーションが信頼されるようになります。

1. ブラウザのアドレスフィールドに以下のように入力し、ci.exe ファイルをダウンロードします:

http://<ServerIPAddress>/ci.exe、ここで、<ServerIPAddress> はサーバーの IP アドレスです。

2. **[保存]** をクリックすると ci.exe ファイルが選択したディレクトリに保存されます。
3. ファイルシステムで、ファイルをダウンロードした場所に移動します。
4. 以下のようにして、ファイルが管理者として実行されるよう権限レベルを設定します:
  - ci.exe を右クリックして **[プロパティ]** を選択します。ファイルの **[プロパティ]** ダイアログボックスが開きます。
  - **[互換性]** タブをクリックします。
  - **[権限]** レベルで、**[このプログラムを管理者として実行する]** をオンにします。(図 25)。

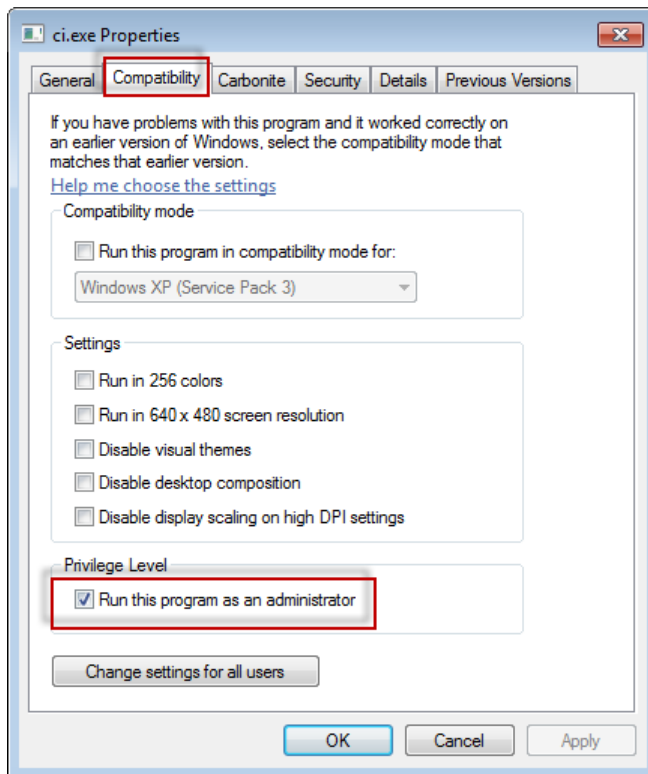


図 25 – ci.exe のプロパティ

5. **[OK]** をクリックします。
6. ci.
7. 正常終了を知らせるメッセージで **[OK]** をクリックします (図 26)。

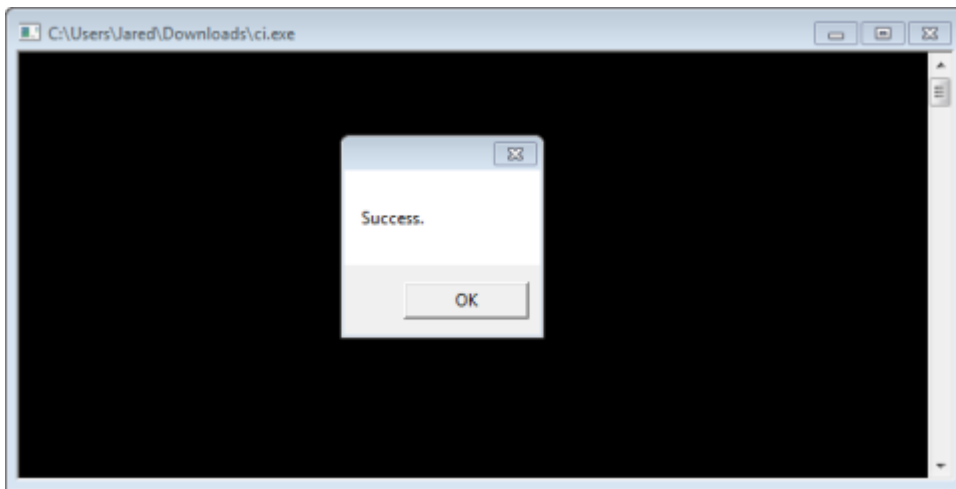


図 26 – ci.exe の正常終了を知らせるメッセージ

8. Web ページをリフレッシュします。

---

## HaspService で "エンドポイントがリスニングしていません"

**問題:** WebReporter.html を使用してサーバーへ接続した後、およびソフトウェアをダウンロードした後に、Web ページを通してソフトウェアの実行を試みると、WebReporter ログイン画面が表示されるのではなく、サーバーの URL で "エンドポイントがリスニングしていません" という赤色のテキストがページに表示される (図 27)。

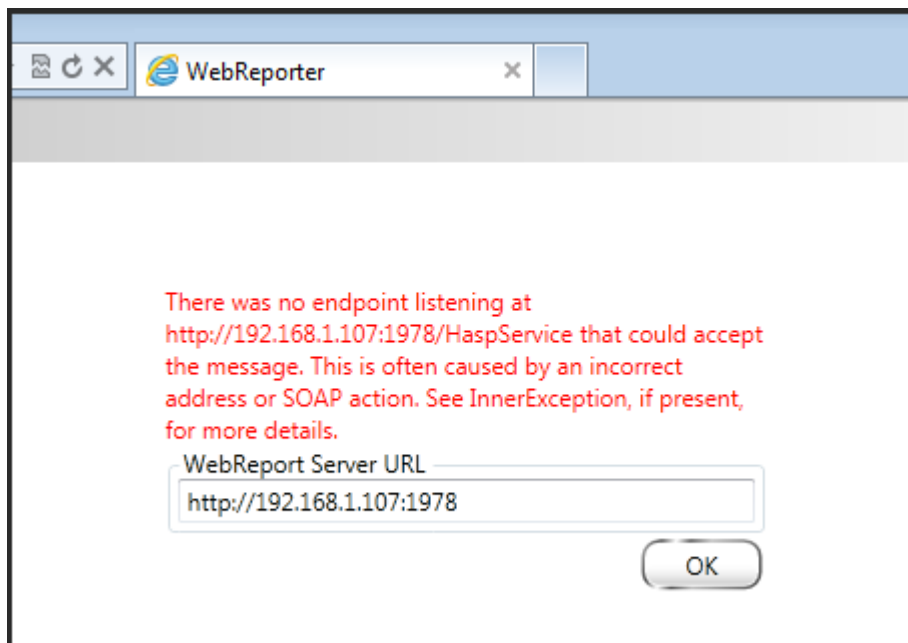


図 27 – エンドポイントがリスニングしていません



このメッセージは WebReportService が止まっているか、または URL が間違っている場合に表示されます。

**解決:** WebReport サービスタイプが [Window サービス] に設定されている場合、WebReport サービスが実行中であり、Web ページから使用されている URL が正しいか確認します。

1. 17 ページのステップ 1: WebReport サービスタイプの選択の手順に従い、**WebReporter サービスユーティリティ**を開きます。
2. **WebReport サービスステータス** (下の 図 28 では "B" で表示) を確認します。実行中でない場合、[開始] をクリックします。
3. Web ページにある **WebReport サーバー URL** ボックスの URL が **WebReport サービス URL** ボックス (下の 図 28 では "A" で表示) と一致するか確認します。

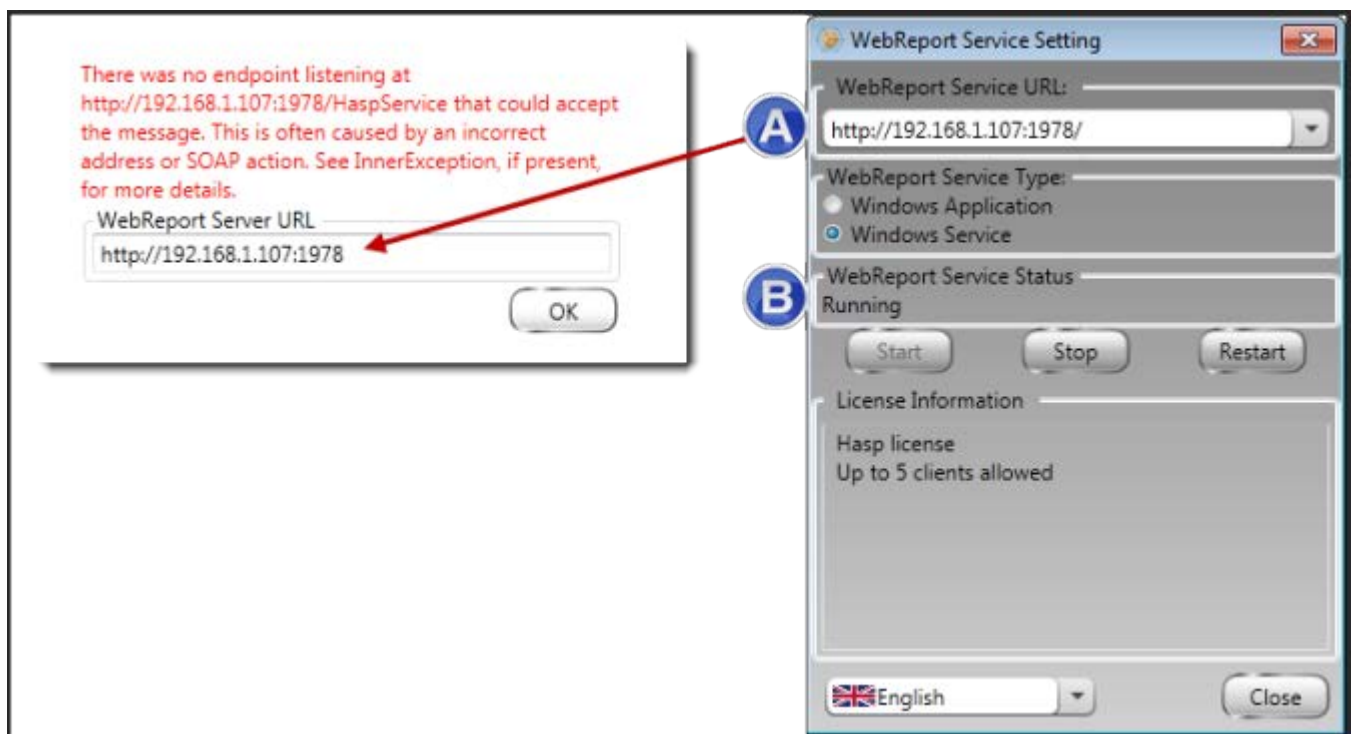


図 28 – WebReport サービス設定および URL

4. Web ページで **OK** をクリックし、再試行します。

## "使用中のアプリケーションでエラーが発生しました" - "...セキュリティ設定が...非互換です"

**問題:** Internet Explorer を使用して WebReporter.html ページを開いたときに、「使用中のアプリケーションでエラーが発生しました」というメッセージが表示され、[詳細情報] をクリックすると「このコンピュータのセキュリティ設定がこのアプリケーションで使用する特定の機能と非互換です」とのメッセージが表示されます 図 29。

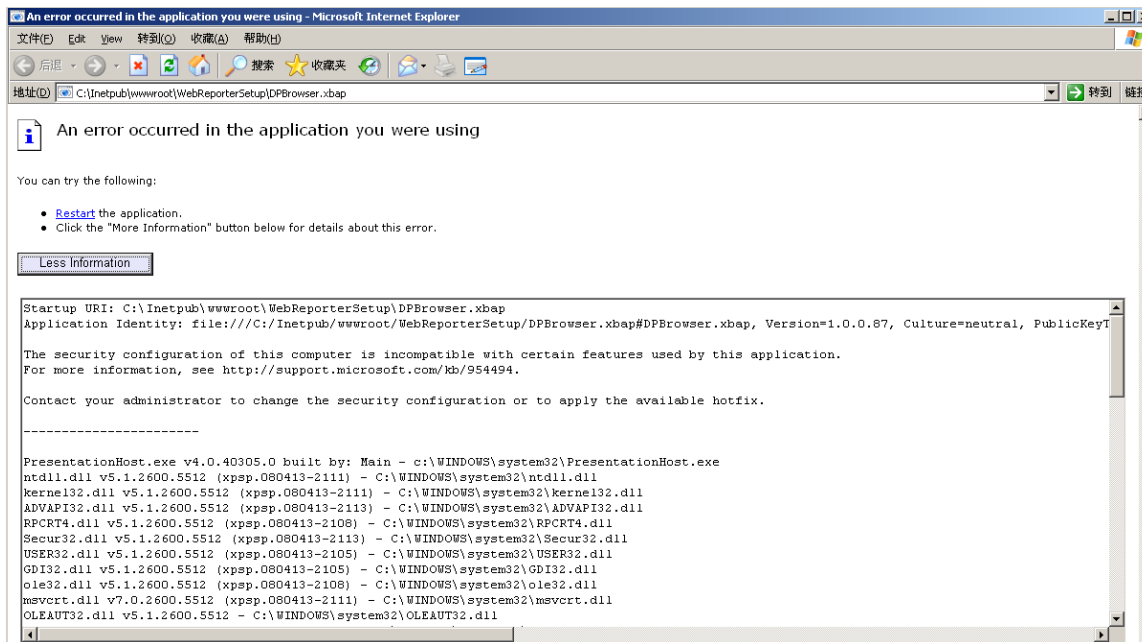


図 29 – 非互換のセキュリティ設定

**解決:** コンピュータのローカルポリシーセキュリティオプションを変更します。これは、

1. コントロールパネルにアクセスします。
2. システム管理ツールを選択して下さい。
3. [ローカルセキュリティ ポリシー] をダブルクリックします。
4. [ローカルセキュリティ設定] ダイアログ ボックスの左側のウィンドウで、[ローカルポリシー] を展開し、[セキュリティオプション] をクリックします (図 30)。

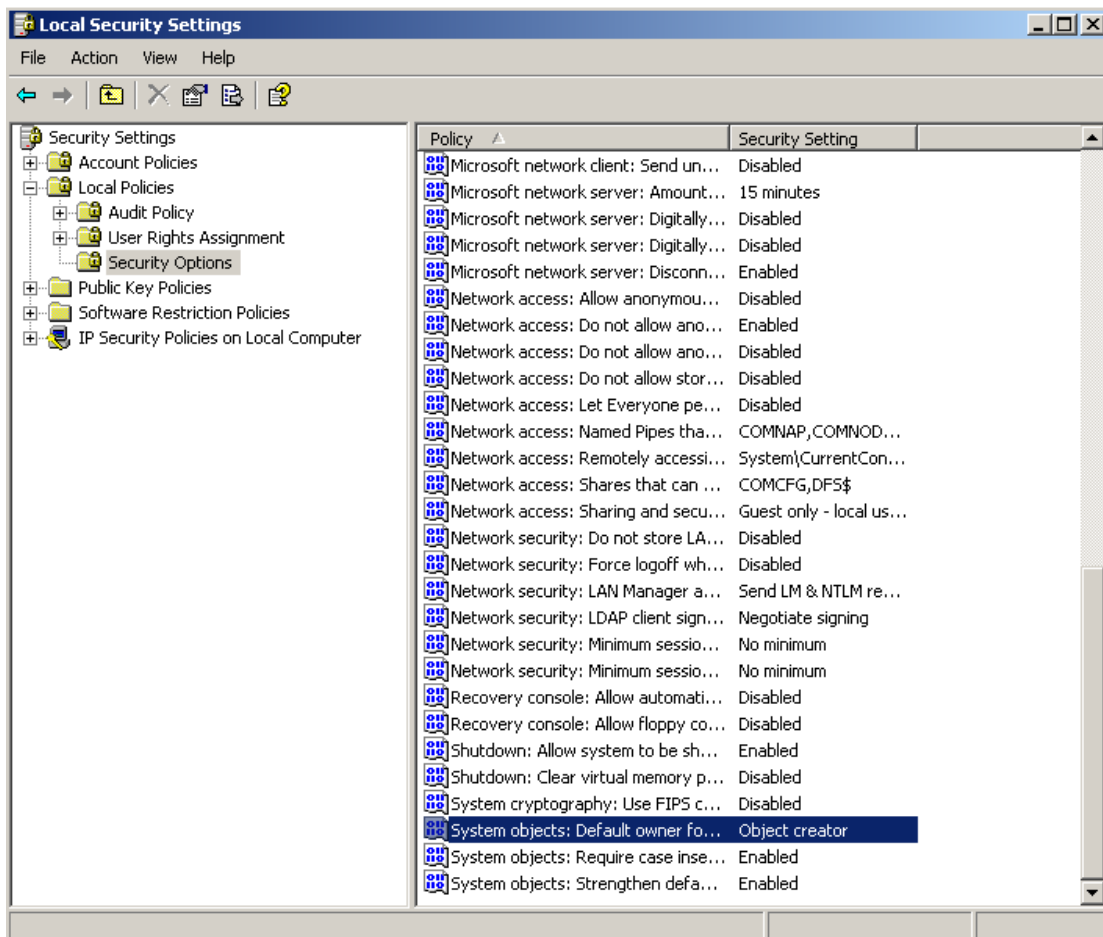


図 30 - [ローカルセキュリティ設定] ダイアログ ボックス

5. [ローカルセキュリティ設定] ダイアログ ボックスの右側のウィンドウで、[システムオブジェクト: 管理者グループのメンバーによって作成されたオブジェクトの所有者をデフォルトにする] をダブルクリックします。
6. [システムオブジェクト] ダイアログ ボックスが開きます。
7. ドロップダウンリストより、[オブジェクトの作成者] を選択します(図 31)

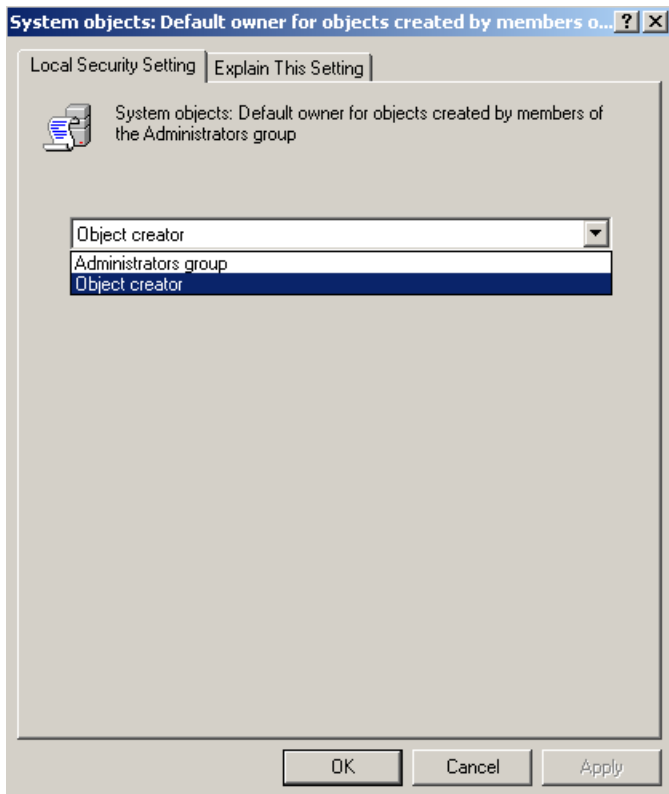


図 31 – [システムオブジェクト] ダイアログ ボックス

8. [OK] をクリックします。

---

## "Web ページが見つかりません" または "404"

**問題:** サーバーに接続しようとするとき "Web ページが見つかりません" または "404" エラーが表示される。

**解決:** "WebReporter ソフトウェアのインストール" 章の手順を終了した後は必ずコンピュータを再起動します。

代わりに、お使いのバージョンに目的のページが含まれていないか、またはアドレスの入力を間違えた可能性があります。正しいアドレスを入力したか確認してください。入力したアドレスが正しいと確認済みの場合は、最新のバージョンをダウンロードしてインストールする必要があります。

---

## "アプリケーション展開エラー"

**問題:** ブラウザから WebReporter.html Web ページにアクセスすると、ページに "アプリケーション展開" エラーメッセージが表示される (図 32)。

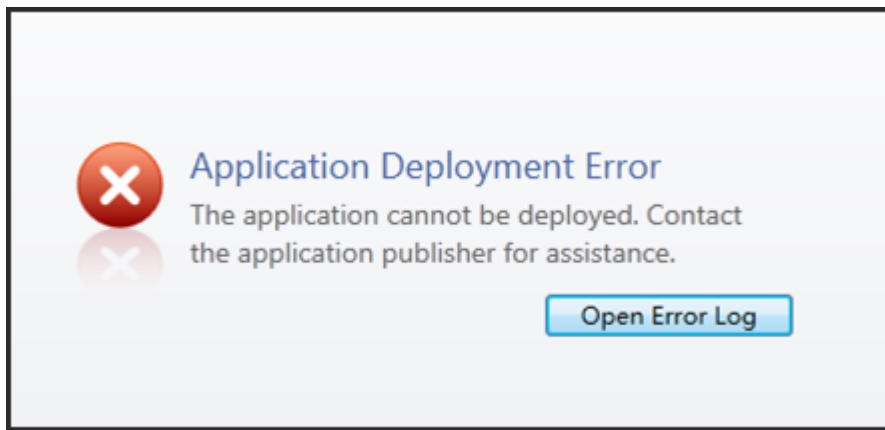


図 32 - アプリケーション展開エラー

**解決:** オンラインアプリケーションのキャッシュを消去することで解決されます。これにより、クライアントはアプリケーションを再度ダウンロードし、次回 WebReporter.html Web ページをリフレッシュする必要があります。キャッシュの消去方法は 2 通りあります。

#### 方法 1: コマンドプロンプトを使用

1. ブラウザを閉じます。
2. [スタート] を選択し、[プログラムとファイルの検索] フィールドで **Cmd** と入力して改行キーを押すことで、コマンドプロンプトウィンドウを開きます。コマンドプロンプトウィンドウが開きます。
3. コマンドプロンプトに `rundll32 %windir%\system32\dfshim.dll CleanOnlineAppCache` と入力し、改行キーを押します (図 33)。

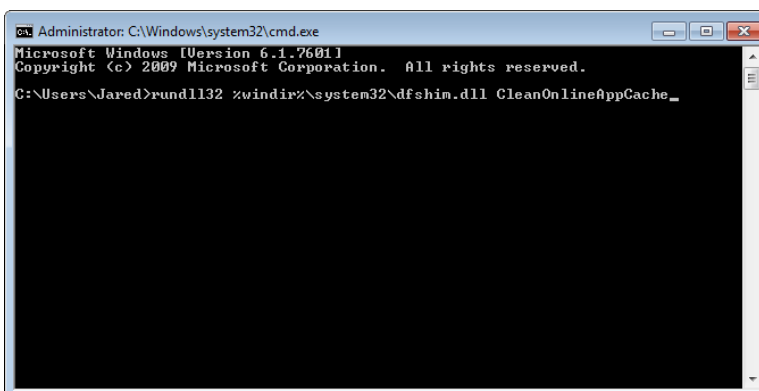


図 33 - CleanOnlineAppCache コマンドを入力したコマンドプロンプト

4. ブラウザを再起動します。
5. `http://<ServerIPAddress>/webreporter.html` ページに再度アクセスします。<ServerIPAddress> はサーバーの IP アドレスです。

**方法 2: Clean.vbs スクリプトを実行**

1. ブラウザのアドレスフィールドに以下のように入力し、clean.vbs ファイルをダウンロードします:  
`http://<ServerIPAddress>/clean.vbs`、ここで、<ServerIPAddress> はサーバーの IP アドレスです。
2. **[保存]** をクリックして clean.vbs ファイルを選択したディレクトリに保存します。
3. ファイルシステムで、ダウンロードしたファイルを見つけます。
4. clean.vbs をダブルクリックして実行します。スクリプトが実行しキャッシュが消去されます。一時ファイルが削除されたことを知らせるメッセージが表示されます (図 34)。

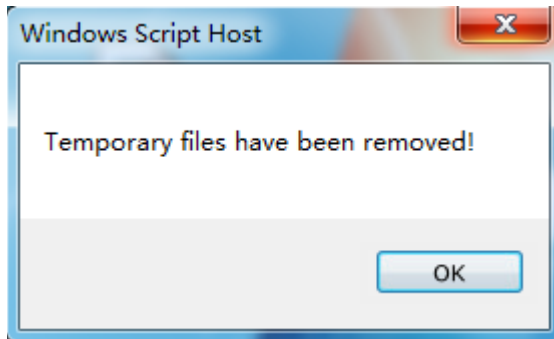


図 34 - キャッシュ消去の正常終了を知らせるメッセージ

5. **[OK]** をクリックします。

# よくある質問 (FAQ)

---

## 概要

本章では、よくある質問に対する回答を示します。

---

## Internet Explorer 以外のブラウザを使用することはできますか？

別のブラウザを使用したい場合、Firefox の "IE Tab Plus" 拡張機能のようにプラグインまたはアドオンとして Internet Explorer が実行でき、.

以下の手順でこれを Firefox で行う方法を説明します。他に独自の IE 拡張機能を備えた別のブラウザも、場合によっては機能します。

**注記:** この手順を実行する前に、本ガイドの主要な章の手順を実施して、WebReporter が実際に Internet Explorer ブラウザで機能することを確認してください。

### Firefox の "IE Tab Plus" アドオンのインストールおよび設定

この手順は任意であり、WebReporter を Firefox ブラウザ内で実行したい場合のみに必要です。

#### ステップ 1 - "IE Tab Plus" アドオンのインストール

1. Firefox を起動します。
2. <http://www.ietabplus.com/> に進みます。
3. ページの右上にある [Add to Firefox (Firefox に追加)] リンクをクリックします。
4. Firefox を再起動します。

#### ステップ 2 - フィルタで xbap ファイルを有効化 (図 35)。

1. Firefox メニューより、アドオンをクリックしてアドオンマネージャを開きます。
2. IE Tab Plus を選択します。

3. オプションをクリックします。
4. [IE Tab – オプション] ダイアログ ボックスが現れます。
5. [サイトフィルタ] タブをクリックします。
6. 一番下にある URL ボックスに、以下を入力します:

^.xbap\$/

7. 追加をクリックして下さい。
8. 適用するそして OK をクリックして下さい。

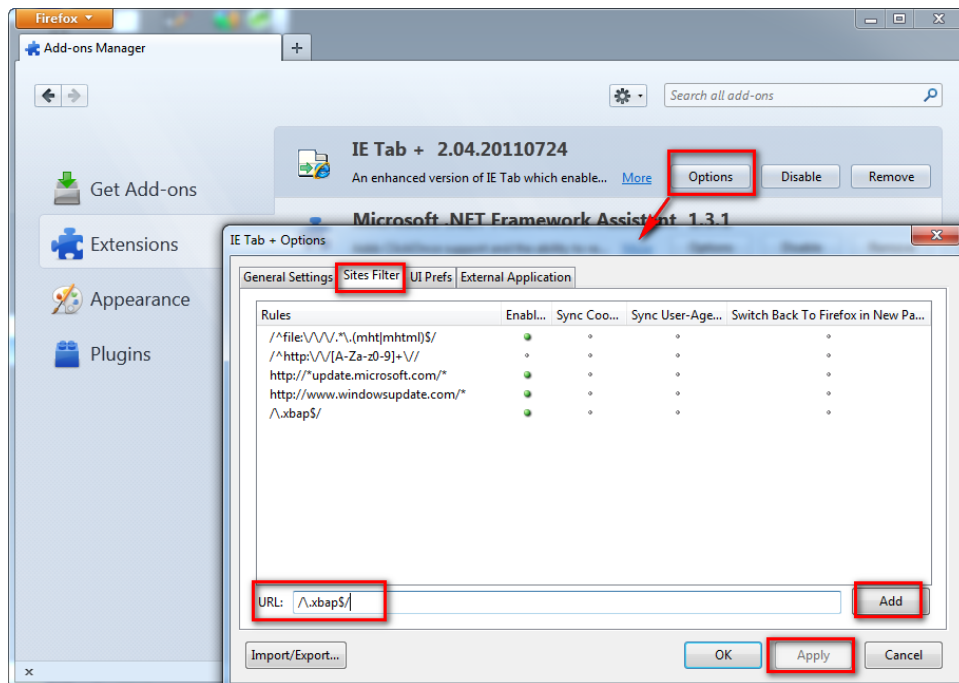


図 35 – xbp ファイルの有効化

### "IE Tab Plus" アドオンで WebReporter を実行

1. Firefox で、ブラウザページの右下にあるアイコンをクリックし、Internet Explorer を使用してページをレンダリングします。
2. 次に、.xbap 拡張機能が付いた完全なアドレスにナビゲートする必要があります。例えば、<http://<YourServerIP>/webreportersetup/dpbrowser.xbap/>。ここで、<YourServerIP> はサーバーの IP アドレスです (図 36)。





図 36 – *dpbrowser.xbap* への完全アドレス

3. このページでサーバーに接続し、WebReporter アプリケーションをダウンロードして実行します。